

宗内寺院紹介 6

毘沙門堂門跡



毘沙門堂の起源は、第四十代天武天皇の御願により文武天皇の大宝三（七〇三）年に行基菩薩によつて開かれたのがはじまりである。平安遷都をなされた第五十代桓武天皇に至り、安国院出雲寺と称される。後に、桓武天皇の御持仏・毘沙門天像（最澄上人からの献上仏）が奉られ、人々からは毘沙門さんとして親しく信仰を仰いできた。藤原定家が歌に愛でるほどの桜の名所でもあった。惜しくも洛中の戦火にまかれて焼失。何度か復興との繰り返しであったが、第百七代後陽成天皇の命により現在の山科の地に再建（二六六五年）され、公弁法親王が入寺（二六七四年）されてより、門跡寺院となった。

ご本尊は最澄上人ご自作の秘仏・毘沙門天。地理的には山科盆地の北端にあたる山裾にあり、盆地を見下ろすような位置で清閑な佇まい。祈禱寺・回向寺として参拝者が多く、桜の名所、紅葉の名所として訪れる人波も年々増している。

毘沙門堂門跡

住 所／京都市山科区安朱稲荷山町18

電話番号／075-581-0328

拝観時間／8:30~17:00（12月から2月は16:30まで）

拝 観 料／一般500円（団体15名以上450円）